

活動支援団体名	認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすび	作成日	2025年3月
活動支援担当者名	川添華子、堀田美華	支援期間	2025年2月～2027年2月
支援対象団体名	観音寺市子ども食堂ネットワーク	2年後の目指す姿(未来シートより抜粋)	1) ボランティアの多様化(これまでこども食堂に関わっていない若いボランティアやババボランティアが楽しく参加してくれる、学校の先生がボランティアで参加) 2) 運営の継続(無理なく活動できる資金獲得ができて、物資が余るほど集まる、多くの企業から毎年寄付が集まる) 3) 運営の世代交代(次の世代に引き継ぎできる) 4) 各町にこども食堂が生まれる(地域の子どもたちが安心できる町に) 5) 地域の活性化(地域との交流が深まる、地域の方達に応援してもらえる、行政の中にこども支援課が生まれる) 6) 毎年イベント開催(防災フェスタなど)
支援団体担当者名	大喜多 恵子、大西 泰子、高橋 貴美子		

No.	実施内容	スケジュール	実施主体	期待する結果(支援対象団体)	期待する結果(むすびえ)	関連する短期アウトカム
1	コミュニティオーガナイズング研修	2025年7月	むすびえ	・運営者や行政に地域ネットワーク機能の必要性を理解してもらい、協力者を増やす	・今後中核を担うメンバーの絆が強くなると共に、個々が自分の想いを言葉に果たせる事ができる ・地域資源をどのようなパワーに変え変革をもたらしていくか、同一のビジョンが持てるようになる	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
2	広報・FRセミナー、戦略策定伴走	2025年10月、11月	むすびえ	・多くの地域ネットワーク団体メンバーがファンドレイジングへの知見を深め、組織全体での総合力を上げる	・資金調達において属人的な懸念があり、より多くのメンバーが講座を受講し知見を得て、共通認識を持てるようになることを期待したい ・広報面はこれまでイベント告知が中心のため、ステークホルダーの巻き込みなど、もう少し対象を明確にした戦略的な広報戦略等も伝えていきたい	支援対象団体が広報FRの基礎を体得し、団体の強みや課題が整理されてドナーピラミッドの作成や中期計画アクションプランの策定など中間支援団体として運営資金を獲得するための戦略が策定されている状態
3	ファンドレイジング専門家による伴走支援	2025年11月～2026年3月	むすびえ	・助成金類みの運営費の改善 ・多くのメンバーが多角的な資金調達を可能とする状態を目指す	・講座で得た知見をベースに、各メンバーが主体的に情報収集を行い、様々な調達へのチャレンジを支援したい ・広報面は対象を明確にした戦略的な広報戦略の支援を行い、認知度向上からのファンドレイジングの足がかりにしていきたい	支援対象団体が広報FRの基礎を体得し、団体の強みや課題が整理されてドナーピラミッドの作成や中期計画アクションプランの策定など中間支援団体として運営資金を獲得するための戦略が策定されている状態
4	基盤整備セミナー開催	2026年2月、9月	むすびえ	・組織基盤の構築 ・将来の在りたい姿に合わせた法人格(一般社団法人かNPO法人)の決定プロセスの参考	・今後の世代交代も鑑みている中で、現メンバーでどこまでの成長を目指すのか、そして次世代にどうなって欲しいか、をしっかりとイメージできるようにって欲しい ・基礎知識を得ていただき、対話でその部分の可視化も行なっていきたい	支援対象団体が実行団体として応募するため事業運営が適切になされ、実績が証明できている状態
5	未来対話ワークショップ	2026年12月	むすびえ	・この事業で協力を得た仲間と、その先数年間も一緒に活動して行きたい	・これまでの活動の振り返り、そしてゆくゆくは世代交代がなされる中で、未来の観音寺市がどうなっていて欲しいか、現在・未来の担い手双方が同じビジョンを持てる場になって欲しい	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
6	学びあいプラットフォーム	2025年4月以降	むすびえ	・全国の地域ネットワーク団体の知見から学び、自団体へ活かす	・プラットフォームに参加する市区町村ネットワーク団体と多く繋がり、事業のヒントを得て実践に活かしてもらいたい	学びあいプラットフォームを通じて全国の市区町村NWにも学びや知見が波及し、新たな地域NWが立ち上がり始める状態
7	ビジョン・ミッションの再確認(価値の言語化、課題整理)	2025年4月～5月	支援対象団体	・漠然としているビジョン・ミッションを確認し、中長期の活動イメージを持てるようになる	・将来のイメージについて抽象度が高いので、価値の言語化をしっかり行い、地域の関係者へ発信できるよう整理したい	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
8	事務局体制の強化(継続運営、世代交代可能な体制づくり)	2025年4月以降	支援対象団体	・属人的な体制となっているため、多くのメンバーが組織運営に関われるようになる	・属人的な運営を刷新すべく、どうすれば皆で取り組めるかの視点で運営体制の検討ができるようになって欲しい	支援対象団体が団体として実行団体になれるだけの自律的な運営・ガバナンス/コンプライアンスの整備ができており、NWとしての運営体制が確定している状態
9	法人化の検討(NPO/一般社団法人)	2025年4月以降	支援対象団体	・いずれかの法人化を実現することで、ミッション・ビジョンの実現や事業継続可能な組織になる	・省力的な方法も含めた検討という観点に懸念を感じており、改めて目指したい姿を見据えた法人化へのプロセスを踏めるよう支援したい	支援対象団体が団体として実行団体になれるだけの自律的な運営・ガバナンス/コンプライアンスの整備ができており、NWとしての運営体制が確定している状態
10	ステークホルダー(地域企業、行政)との連携強化と資金調達	2025年4月以降	支援対象団体	・ステークホルダーと連携することで、組織運営という観点にとどまらず、地域の活性化にも寄与する	・運営継続の観点で重要な取り組みとなるため、優先順位や現時点での懸念点などを丁寧にヒアリングし、慎重かつ着実に関係強化へ繋げていきたい	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
11	イベント開催をフックにした地域連携強化	2025年4月以降	支援対象団体	・地域内のこども食堂運営者、そしてステークホルダーとの繋がりを強化する	・メンバーが得意とする領域で、24年度に実績があるこども食堂運営者も関わりやすく、達成感も味わえることから、定期的な開催に繋げられるよう、運営体制構築を支援したい	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
12	パントリー機能の実装	2025年4月以降	支援対象団体	・地域関係者から物資の提供がありつつ、分配し切れず勿体無い状況の解決を目指す	・意見交換の際に常々課題に挙げられており、冷蔵庫の寄贈獲得など早々に実現させたい	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
13	月1ミーティングの実施	2025年3月～2027年3月	支援対象団体	・事業における悩みが随時解消される	・価値を言語化し、打ち合わせを通して目指したい姿やタスクが整理できるようにしたい ・信頼される関係構築	支援対象団体が実行団体として応募するため事業運営が適切になされ、実績が証明できている状態